

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		2・東書	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・002-72 道徳・002-82 道徳・002-92	新編 新しい道徳 1 新編 新しい道徳 2 新編 新しい道徳 3
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～骨髄バンクの運動などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～末期癌患者との出会いなどを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～医療措置の打ち切りなどを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～地球温暖化対策などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～わたり鳥の環境保護などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～樋井川の再生などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～中山太鼓や地歌舞伎などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～秋田竿燈まつりなどを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～隅田川の花火と灯ろう流しなどを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～SNSへの悪口の投稿を扱い、信頼できる友達になるためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～動画のアップロードを扱い、法律や決まりを守るためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～SNSへの投稿を扱い、友達とよい関係を築くためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「私の『ふつう』と、あなたの『ふつう』」において、資料を基に、偏見をなくして、外国の人々とよりよく関わるために必要なことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「魔法使いの少年－いつかの自分」において、ポスターを基に、誰かの感謝の思いやそれを示す行動に、温かい気持ちになった経験について話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動				

	第3学年～「その子の世界、私の世界」において、写真を基に、「その子の世界」で起きている問題に対して、どのようなことができるかについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、考えたことをメモし、話し合いに活用できる「つぶやき」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、自ら問題を設定し、問題を解決する過程で、道徳性を養う教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、教材に即して役割演技を行うコラム（Plus）を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは43ページ、Bは35ページ、Cは64ページ、Dは37ページ、Eは0ページ、Fは23ページであり、総ページ数は202ページで、前回より約7%増となっている。 第2学年～Aは32ページ、Bは38ページ、Cは77ページ、Dは40ページ、Eは0ページ、Fは23ページであり、総ページ数は210ページで、前回より約7%増となっている。 第3学年～Aは28ページ、Bは33ページ、Cは91ページ、Dは35ページ、Eは0ページ、Fは23ページであり、総ページ数は210ページで、前回より約7%増となっている。
使用上の配慮等	○ 写真や挿絵、ポスターなどのビジュアルから考える教材や、漫画やグラフから考える教材など、多様な教材（全学年）を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 写真やイラストを見て自ら問題を見だし、その問題についてグループや学級で話し合う活動（全学年）を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、1学年では、芦別市出身の植松氏を扱った教材、2学年では、日高郡の自然災害伝承碑、3学年では、霧多布高等学校の高校生の作文などが扱われている。 ○ ICTの活用については、Web上において、教材を理解するための4コマ漫画や声優による教材文の朗読音声、教材に関連した映像やWebサイト、心情円や他教科の教科書紙面等が閲覧できる工夫がなされている。

	○ 小中連携による指導については、小学校道徳で学習した教材を掲載し、小学校での学習を思い出しながら考えることのできる工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、「考えよう」「ぐっと深める」などの設問を掲載し、様々な角度から考えさせるなどの工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、各教材にある「つぶやき」欄に思ったことや考えたことを記入することができるよう工夫がなされている。 ○ いじめの防止については、3つの教材を「いじめのない世界へ」というテーマでユニット化し、いじめ問題を直接的に考えることができるよう工夫がなされている。
その他	○ 人権教育、多様性、SDGs、LGBTQに関する扱いについては、SDGsやジェンダーの問題について学習できる付録や人権について取り上げる教材などが掲載され、考えを深められるよう工夫がなされている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・017-72 道徳・017-82 道徳・017-92	中学道徳1 とびだそう未来へ 中学道徳2 とびだそう未来へ 中学道徳3 とびだそう未来へ
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～生き物の世話などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～国境なき医師団の活動などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～動物の殺処分などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～富士山の環境問題などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～グリーンコンシューマー十原則などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～琵琶湖を守る活動などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～すまんじゅうなどを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～請戸の田植踊などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～博多祇園山笠などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ソーシャルメディアのルールとマナーを扱い、誰もが安心して気持ちよく活用するためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～SNSでのトラブルを扱い、自分の意図しない形で情報が広がらないようにするためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～歩きスマホが原因のトラブルを扱い、安全で調和のある生活を送るためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「『ちがひ』について考えよう」において、表を基に、一人一人が輝ける社会を築いていくために必要なことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「お菓子、どうする？」において、心情メーターを基に、みんなが納得できるルールを作るときに、大切にしたいことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動			

	第3学年～「変わりゆく地球」において、写真を基に、地球とともに生きるために、自分が何をしようと思うかについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、道徳的価値について考えを深めることのできる「学びの道しるべ」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、様々な考えを出し合い、答えが一つではない問いを考え続ける教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、直前の教材に関連した役割演技やリフレーミングなどを行う「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは47ページ、Bは34ページ、Cは69ページ、Dは37ページ、Eは0ページ、Fは22ページであり、総ページ数は209ページで、前回とほぼ同様となっている。 第2学年～Aは40ページ、Bは38ページ、Cは72ページ、Dは29ページ、Eは0ページ、Fは22ページであり、総ページ数は201ページで、前回より約5%増となっている。 第3学年～Aは30ページ、Bは36ページ、Cは72ページ、Dは41ページ、Eは0ページ、Fは22ページであり、総ページ数は201ページで、前回より約5%増となっている。
使用上の配慮等	○ 絵本、写真、漫画など、生徒の興味・関心を高める多様な教材や、今日的な社会課題を扱った読み物教材（全学年）を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 自分の考えを整理したり、他の人の考えと比べたりし、「自分なりのこたえ」を導き出す活動（全学年）を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、1学年では、北海道赤平市の植松努氏の教材、3学年では、アイヌ民族などが扱われている。 ○ ICTの活用については、教材の理解を助ける教材解説や動画、学びを深めたり、広げたりできる外部リンクなどのデジタルコンテンツを活用できるよう工夫がなされている。

	○ 小中連携による指導については、巻頭詩において、小学校生活に関わった人たちに ついて想起させるなどの工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を付けることができるよう、教材末の「学 びの道しるべ」に発問を示す工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、教材末の 「学びの道しるべ」や学期ごとの「道徳科の学びをふり返ろう」、学年末の「『より よく生きる』って、どういうことだろう？」に発問を示す工夫がなされている。 ○ いじめの防止については、複数教材とコラムからなるユニットを設定し、多様な側 面から連続して学ぶことで考えを深めていくことができるよう工夫がなされている。
その他	○ 人権教育、多様性、SDGs、LGBTQに関する扱いについては、複数教材とコ ラムからなるユニットを設定し、多様な人々や地球環境との共生について考え、差別 をなくし、ジェンダーや性的多様性、マイノリティなどについても理解が深められる よう工夫がなされている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		38・光村	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・038-72 道徳・038-82 道徳・038-92	中学道徳 1 きみが いちばん ひかるとき 中学道徳 2 きみが いちばん ひかるとき 中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～動物の殺処分などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～臓器提供などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～ホスピスのリクエスト食などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～あるヒグマのエピソードなどを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～富士山のガイドの仕事などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～身近な食材であるタコなどを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「島人ぬ宝」の歌詞などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～木桶仕込みのしょうゆなどを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～博多の伝統的な祭り「放生会」などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～SNSでのやり取りを扱い、相手を理解し、わかり合うためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～中高生のネット依存を扱い、日常生活に支障を来さないためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～「NO MORE映画泥棒」を扱い、他者の権利を守るためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「『感動』の本質を探ろう」において、資料を基に、自分の生活には、どんな変化が起こりそうかについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「『尊重』の本質を探ろう」において、資料を基に、一人一人が尊重される社会とは、どのような社会かについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動			

	第3学年～「『学び』の本質を探ろう」において、資料を基に、学びに関して新たに発見したのは、どのようなことかについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、実感を伴った学びに高める「まなびをプラス」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、生徒自らが問いを立て、考えが深められるよう「チャレンジ問いを立てよう」を配置し、様々な道德上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、役割演技で実感を伴う議論ができる「チャレンジ」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道德的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは30ページ、Bは28ページ、Cは58ページ、Dは35ページ、Eは10ページ、Fは30ページであり、総ページ数は191ページで、前回より約4%増となっている。 第2学年～Aは33ページ、Bは40ページ、Cは59ページ、Dは32ページ、Eは5ページ、Fは30ページであり、総ページ数は199ページで、前回より約4%増となっている。 第3学年～Aは49ページ、Bは24ページ、Cは54ページ、Dは28ページ、Eは14ページ、Fは30ページであり、総ページ数は199ページで、前回より約4%増となっている。
使用上の配慮等	○ 漫画形式の教材、表やグラフ、写真から成る教材、ケーススタディで考える教材など、多様な題材（全学年）を配置し、自らの道德性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 普段の生活の中から疑問に思った話題についてグループで対話する「てつがく」（全学年）を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、1学年では、知床半島、2学年では、アイヌの歌、3学年では、北海道が舞台となる教材などが掲載されている。 ○ ICTの活用については、二次元コードから教材に関連する動画などの参考資料を閲覧することができるよう工夫がなされている。

	○ 小中連携による指導については、巻頭に中学校生活のスタートについて触れる内容を掲載するほか、各学年において小学校の学習を振り返る教材を掲載する工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、全ての学年において、「道徳で大切にしたいこと」のページで「友だちと問い合う」の観点を設定したり、巻末に付録として「まなびの道具箱」で思考ツールを掲載したりする工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、教材の終末に、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で考えさせる発問を示すほか、学びを振り返るためのワークシートを掲載する工夫がなされている。 ○ いじめの防止については、いじめについて取り扱う教材を各学年で設定しているほか、「まなびをプラス」の教材を配置し、相互理解や友情信頼の視点から学びを深めることができるよう工夫がなされている。
その他	○ 人権教育、多様性、SDGs、LGBTQ等については、人権について考えるユニットの設定や全学年で人権と環境に関わる内容として「持続可能な社会のために」のコラムが掲載され、理解が深められるよう工夫がなされている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・116-73, 道徳・116-74 道徳・116-83, 道徳・116-84 道徳・116-93, 道徳・116-94	中学道徳 あけを生きる1, 中学道徳 あけを生きる1 道徳ノート 中学道徳 あけを生きる2, 中学道徳 あけを生きる2 道徳ノート 中学道徳 あけを生きる3, 中学道徳 あけを生きる3 道徳ノート
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標, 内容 等	○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～阪神・淡路大震災などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～骨肉腫との壮絶な闘いなどを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～臓器提供などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている 第1学年～古木の治療や移植などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～緑化事業などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～川端の水文化などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「法の協鹿踊り」をはじめとする郷土芸能などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～日本の「包む」文化などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～江戸切子などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～SNSの投稿を扱い、自分が法を守っていくためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～情報の受信と発信を扱い、必要な場面や状況に応じて情報を活用するためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～身の回りのマナーを扱い、マナーに対する心構えをもつためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「三人の乗客」において、ノートやタブレット端末を使い、人と人がもっと理解し合うために必要なことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「五月の風－ミカー－」において、話し合いの例を基に、信頼される友達になるために大切なことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動				

	第3学年～「卒業文集最後の二行」において、話し合いの例を基に、いじめという問題を乗り越えるために大切な考えについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、協働的な学びの積み重ねをまとめられる「道徳ノート」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、道徳的な問題を見つけ、その解決に向けて主体的・対話的に考える教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、教材場面の役割演技などを行う「学びを深めよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは41ページ、Bは41ページ、Cは74ページ、Dは40ページ、Eは5ページ、Fは19ページであり、総ページ数は220ページで、前回より約5%減となっている。 第2学年～Aは37ページ、Bは43ページ、Cは74ページ、Dは50ページ、Eは5ページ、Fは19ページであり、総ページ数は228ページで、前回より約1%減となっている。 第3学年～Aは39ページ、Bは41ページ、Cは91ページ、Dは43ページ、Eは5ページ、Fは17ページであり、総ページ数は236ページで、前回より約2%増となっている。
使用上の配慮等	○ 身近な生活場面やスポーツ選手の教材、漫画形式やグラフを扱う教材など、多岐にわたる教材（全学年）を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 道徳的価値を自分との関わりで理解し、授業で学んだことを前向きに自分に生かすための発問例「自分に＋1」（全学年）を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、1学年では、アイヌ文化を扱う教材、2学年では、えりも町の森づくりを扱う教材や、常呂町のカーリングなどが扱われている。 ○ ICTの活用については、全ての教材に二次元コードが掲載され、動画や関連画像、朗読、ワークシート、心情メーターなど、豊富なコンテンツが設定されており、教科書と別冊ノートのそれぞれからアクセスできるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、巻頭詩「であう」において、中学校に進学したことへの意欲を喚起させる内容を取り上げる工夫がなされている。

本市生徒の 学習の状況 等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、全ての教材末の「3つのステップ」の「考えてみよう」において、自分の考えを表現したり、話し合ったりするきっかけとなる発問を示す工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、教材の終末に「自分に＋1」を設け、授業で学んだことを前向きに自分に生かすための発問例を掲載するとともに、別冊の道徳ノートに自分の考えや自分への振り返りを記入する工夫がなされている。 ○ いじめの防止については、各学年において、多様な教材を「いじめと向き合う」というテーマでユニット化し、いじめ問題について考えを深めることができるよう工夫がなされている。
その他	○ 人権教育、多様性、SDGs、LGBTQに関する扱いについては、現代的・社会的課題に対応したテーマ「自立と共生」「環境と未来」などのテーマに沿って、ユニットやコラムを構成し理解が深められるよう工夫がなされている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		224・学研	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・224-72 道徳・224-82 道徳・224-92	新版 中学生の道徳 明日への扉 1 新版 中学生の道徳 明日への扉 2 新版 中学生の道徳 明日への扉 3
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～進行性筋萎縮症などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～死産を経験した母親などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～余命宣告を受けた人物などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～特別天然記念物などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～リンゴの自然栽培などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～絶滅危惧種のマウンテンゴリラなどを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～狂言や琵琶などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～五色桜などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～青森ねぶた祭などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ネットでのうわさ話を扱い、友達に対して偏見をもたないようにするためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～SNSでのやり取りを扱い、ネットやSNSを最適に活用するためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～SNSのアップロードやダウンロードを扱い、周りの人の権利を損なわないようにするためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「公平とは何だろう」において、イラストを基に、差別や偏見のない社会を実現するために、身近でできることについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「コスモスR計画」において、マンガを基に、地球を美しく再生するために、どうしたらよいかについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動			

	第3学年～「電車の中で」において、マンガを基に、思いやりを行動に表すときに、大切にしたいことは何かについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、考えたことをメモし、話し合いに活用できる「メモ欄」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、多様な観点から問題意識を喚起する教材を配置し、様々な道德上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、役割演技をして登場人物になりきって考える活動を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道德的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは38ページ、Bは34ページ、Cは62ページ、Dは30ページ、Eは0ページ、Fは26ページであり、総ページ数は190ページで、前回より約4%増となっている。 第2学年～Aは40ページ、Bは30ページ、Cは62ページ、Dは36ページ、Eは0ページ、Fは26ページであり、総ページ数は194ページで、前回より約1%減となっている。 第3学年～Aは40ページ、Bは36ページ、Cは62ページ、Dは34ページ、Eは0ページ、Fは26ページであり、総ページ数は198ページで、前回より約2%増となっている。
使用上の配慮等	○ 従来の読み物教材ではない、新感覚型の教材を充実させ、多様な観点から問題意識を喚起する教材（全学年）を配置し、自らの道德性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ マンガやイラストを見て自ら問題を見だし、その問題についてグループや学級で話し合う活動（全学年）を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、1学年では、常呂町ロコ・ソラーレの本橋選手を扱う教材、2学年では、上川町出身スキージャンプの高梨選手や昭和初期の小樽を舞台にした教材、3学年では、赤平市の植松努氏などが扱われている。 ○ ICTの活用については、巻頭で「パソコンやタブレットを活用しよう」のコーナーがあり、使う時の注意点や活用法などが掲載されているほか、Web上に、写真や動画等の補助教材、ワークシートなどを用いることができるよう工夫がなされている。

	○ 小中連携による指導については、小学生のときの友人グループとのSNS上でのやりとりを考える教材を掲載する工夫がなされている。
本市生徒の 学習状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、特設ページ「クローズアップ」では、多様な意見や内容項目が異なる視点からの関連情報などを掲載する工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、教材の終末に、「考えよう」を設け、教材を基に、自分の生き方に向き合うきっかけとなる発問を示す工夫がなされている。 ○ いじめの防止については、「いのちの教育」を重点とし、「いじめ防止」の教材と「多様性」の教材を連携させることで、いのちの尊さや人権を重んじ、いじめのない社会づくりに取り組む意欲を高めることができるよう工夫がなされている。
その他	○ 人権教育、多様性、SDGs、LGBTQに関する扱いについては、生命の尊さや人権を重んじ、多様性を受け入れながら他者と共によりよく生きることについて考えることができるユニットを設定し、理解が深められるよう工夫がなされている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		232・あか図	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・232-73 道徳・232-83 道徳・232-93	中学生の道徳1 中学生の道徳2 中学生の道徳3
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～震災時の警察官の手記などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～マザー・テレサの活動などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～臓器提供などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～グリーンベルト運動などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～地球誕生からの歴史などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～襟裳の再生などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～海外の人に日本のよさを紹介することなどを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～相馬野馬追などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～姫路城の修復工事などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～動画サイトへのコメントを扱い、誹謗中傷で相手を傷つけないためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～スマートフォン依存度を扱い、望ましい生活習慣を身に付けるためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～SNSでのメッセージを扱い、軽はずみな行動で大きな影響を与えてしまわないためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「魚の涙」において、資料を基に、いじめの加害者・観衆・傍観者の視点から、いじめのない世界にするために大切にしたいことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「いつでも・どこでも・SNS」において、教材の場面を基に、SNSをめぐるすれ違いについて具体的に想像し、自分自身がどのように行動するかについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動				

	第3学年～「目の見えない白鳥さんとアートを見にいく」において、写真を基に、白鳥さんとのアート鑑賞を紙面上で体験し、障がいのある人との共生について話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、教材を読んで考えるための視点を提示した吹き出しの「発問」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、生徒が色々な立場で想像したり考えたりできるような問い「マイ・プラス」を配置し、様々な道德上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、生徒が色々な立場で想像したり考えたりできるような問い「マイ・プラス」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道德的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは35ページ、Bは34ページ、Cは61ページ、Dは34ページ、Eは10ページ、Fは20ページであり、総ページ数は194ページで、前回より約13%減となっている。 第2学年～Aは38ページ、Bは31ページ、Cは63ページ、Dは37ページ、Eは4ページ、Fは21ページであり、総ページ数は194ページで、前回より約7%減となっている。 第3学年～Aは37ページ、Bは33ページ、Cは63ページ、Dは36ページ、Eは4ページ、Fは21ページであり、総ページ数は194ページで、前回より約5%減となっている。
使用上の配慮等	○ 学期ごと及び1年間の自分自身の授業の取組を振り返る、切り取り式ワークシート「学習の記録」（全学年）を配置し、自らの道德性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 教材の学習後にさらに学びを広げることができるよう、Thinking（コラム）や巻末付録（全学年）を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、1学年では、札幌市の除雪について、2学年では、釧路湿原や旭川市出身の作家・三浦綾子、3学年では、旭川市出身のバスケットボール選手・町田瑠偉などが扱われている。 ○ ICTの活用については、二次元コードからインタビューや人物の紹介、補足となる写真、同じテーマの関連動画などを閲覧できるよう工夫がなされている。

	○ 小中連携による指導については、最初に出会う教材として「道徳 はじまりの時間」を設定し、中学校生活のスタートを意識させるよう工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、「いろいろな見方を考える」において発問が示されているほか、補助資料としてThinking（コラム）を掲載する工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、各教材末の「考えを深める」や「自分に問い直す」に発問を示す工夫がなされている。 ○ いじめの防止については、「相互理解，寛容」や「公正，公平，社会正義」の内容項目と関連付けながら，複数教材によるユニットを構成するなどの工夫がなされている。
その他	○ 人権教育，多様性，SDGs，LGBTQ等に関する扱いについては，巻末付録「持続可能な社会に向けて学びを振り返ろう 広げよう」において，SDGsに関わる教材が掲載されるなどの工夫がなされている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		233・日科	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・233-72 道徳・233-82 道徳・233-92	道徳 中学校1 生き方から学ぶ 道徳 中学校2 生き方を見つめる 道徳 中学校3 生き方を創造する
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	○ 生命の尊厳については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ペットの殺処分などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第2学年～ドクターヘリの要請などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 第3学年～骨髄移植などを基に、生命の連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することの大切さについて考える活動 ○ 自然については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～美しい地球などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第2学年～富士山の環境問題などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 第3学年～白神の森などを基に、自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることについて考える活動 ○ 伝統と文化については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～囲炉裏の分け火などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第2学年～日本三名橋の錦帯橋などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 第3学年～農山村の過疎化などを基に、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献することの大切さについて考える活動 ○ 情報化への対応については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～A I が作ったフェイク写真を扱い、情報に振り回されないためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第2学年～A I が作った読書感想文を扱い、今後、A I と付き合っていくためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 第3学年～SNSでの誹謗中傷を扱い、SNSと上手に付き合っていくためには、どのようなことが大切なのかを考える活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「いじめ問題と向き合う」において、いじめに関わる方々の意見を基に、いじめがなくなる理由や解決方法について話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第2学年～「二通の手紙」において、登場人物である元さんの行動を基に、決まりを守ることに互いの考えを出し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動				

	第3学年～「彼と私のありがとう」において、資料を基に、立場の違う者同士が、よりよい関係を築く時に大切にすべきことについて話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、対話しやすい環境をつくる「ウェルビーイングカード」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、教材の特性に合わせて発問や展開を工夫して配置し、様々な道德上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断して実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるような工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、教材の特性に合わせて発問や展開を工夫して配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道德的価値の意義などについて考えを深めるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」、Fは「内容項目以外の記載等」を表す。 第1学年～Aは33ページ、Bは31ページ、Cは53ページ、Dは25ページ、Eは3ページ、Fは18ページであり、総ページ数は163ページで、前回より約15%減となっている。 第2学年～Aは31ページ、Bは25ページ、Cは65ページ、Dは24ページ、Eは3ページ、Fは19ページであり、総ページ数は167ページで、前回より約13%減となっている。 第3学年～Aは41ページ、Bは29ページ、Cは61ページ、Dは19ページ、Eは3ページ、Fは18ページであり、総ページ数は171ページで、前回より約11%減となっている。
使用上の配慮等	○ 学びの目標と目的意識をもって授業に向かうための「クラスのみんと『道德授業』を創り出そう」（全学年）を配置し、自らの道德性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 各教材の発問「深めよう」（全学年）において、自らのこれからの在り方を考える場面を配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントに配慮するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、2学年では札幌農学校の教授を務めた新渡戸稲造、3学年では、幕別町出身のスピードスケート選手・高木美帆などが扱われている。 ○ ICTの活用については、Web上に教材と関連した動画や画像、関連資料が閲覧できるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、教科書の巻頭に、中学生における道德の授業の心構えを掲載する工夫がなされている。

本市生徒の 学習の状況 等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、ウェルビーイングカードを活用し、同じ物事についての見方や考え方を互いに示し合うなどの活動が充実するよう工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えることができるよう、教材の終末に「考えよう」「深めよう」を設け、自分の立場から考えたり、自分自身に問いかけたりする発問を示す工夫がなされている。 ○ いじめ防止については、学校生活の中で「いじめに」陥りやすい場面を積極的に取り上げ、各学年において、いじめ問題と関連付けた教材を2つ設定するなどの工夫がなされている。
その他	○ 人権教育、多様性、SDGs、LGBTQ等については、全ての学年において、多様性を認識することを促す教材が掲載されており、LGBTQについて考えるきっかけとなるよう工夫されている。